

放射線診断学に革命をもたらしたX線CTの登場と技術発展の歩み

X線CT装置は1968年に登場するや否や、世界的規模で熾烈な開発競争が展開され、様々なアイデアに基づく多様な装置が開発され、驚異的速さで進歩発展を遂げた。

今や日本はCT製造企業7社中3社を有し、世界一のCT普及国であるが、CTの進歩発展への貢献度も高く、特にCTルネッサンスとも呼ばれる、ヘリカルスキャンを生みだし、頭部断層像等の二次元平面画像時代から、拍動する心臓の三次元立体画像を扱う、ボリュームCT時代への道を切り拓く主導的役割を果たした。

CT登場以前の先史的試みや原理的発見から現代に至るCT成長の過程をエポックメイキングな装置と企業盛衰等を含めて紹介する。

日時:平成21年3月14日(土) 14時00分～16時00分

会場:国立科学博物館(上野) 地球館 3階講義室

講師:平尾 芳樹(前・産業技術史資料情報センター主任調査員)

募集:40名(高校生以上一般向)

申込方法:往復はがきもしくは電子メールで受付

平成20年2月21日締切(消印有効)

入館にあたり、通常入館料

一般・大学生 600円。

高校生・満65歳以上の方は無料(年齢が分かる証明書等を提示)が必要です。

〒169-0073

新宿区百人町3-23-1

国立科学博物館 新宿分館 研究推進課

電話:03-3364-7103(月～金)

03-5814-9875(土・日・祝日)

電子メール:sts2006@kahaku.go.jp

往復はがきまたは電子メールで(1)3月14日:産業技術史講座、(2)参加者氏名、(3)住所(返信用にも)・メールアドレス、(4)電話番号、(5)年齢、(6)職業又は学年、を記入。応募者多数の場合は抽選。グループで参加希望の場合は、参加者全員の氏名・年齢を記入。

関連ホームページ「国立科学博物館—産業技術史資料情報センター—」

<http://sts.kahaku.go.jp/>

今後のご案内

平成21年度:奇数月の第2土曜日開催予定で、以下のテーマを予定しております。

「電子顕微鏡」・「セラミックス」・「貨車」・「エスカレーター」・「自動車ブレーキ」・「ビール」(開催順序は未定)